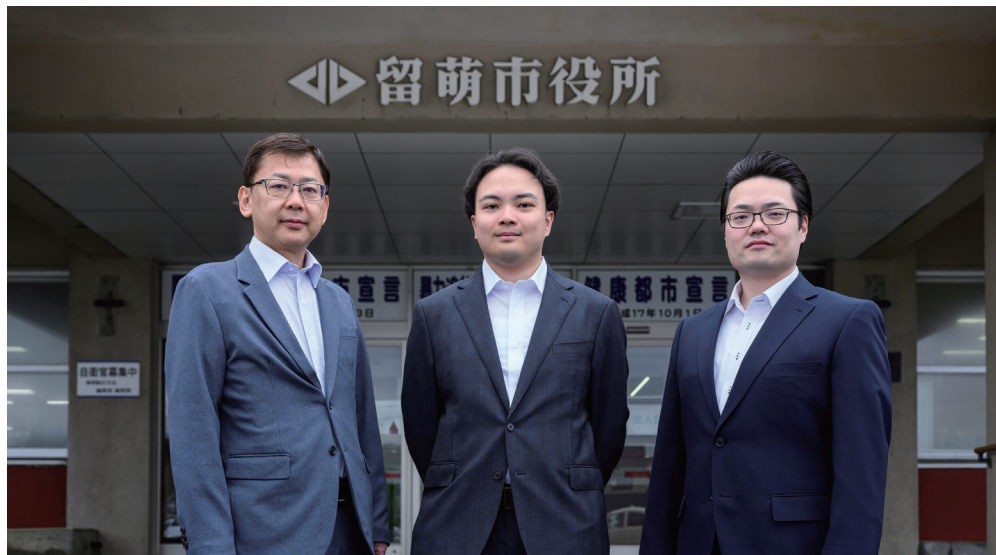




業種：自治体
人口：1万7864人（令和7年5月末）
総面積：297.81km²
市名の由来：アイヌ語「ルルモッペ」（汐が奥深く入る川）



左から税務課 課長の佐伯忠昭さん、市民税係 主事の山口雄大さん、市民税係 係長の黒田亮さん。記事では黒田さんにお話をうかがいました。

紙で届く約6,000枚の給与支払報告書を AI-OCRで読み取り、「税務LAN」に連携 設定不要で即運用可能な「DynaEye給与支払報告書OCR」が給報入力業務を効率化

北海道留萌市では、紙で提出される給与支払報告書約6,000枚の記載内容を住民税課税支援システム「税務LAN」に手入力していましたが、令和6年分から給与支払報告書の読み取りに特化したAI-OCRソフトウェア「DynaEye 給与支払報告書OCR」を導入し、給与支払報告書のイメージデータから抽出したテキストを「税務LAN」に取り込む運用を開始しました。留萌市役所を訪ね、その背景や導入効果について詳しくうかがいました。

- | | |
|-----|--|
| 課 題 | 紙の給与支払報告書約6,000枚の入力処理に手間と時間がかかり、残業も発生して職員の負担になっていた。特に令和6年分の処理時には定額減税の影響による状況悪化が憂慮された。 |
| 解決法 | 専用のAI-OCRソフトウェア「DynaEye 給与支払報告書OCR」と株式会社ムサシが開発した変換プログラムを導入し、給与支払報告書から抽出したテキストを「税務LAN」に取り込む運用を開始。 |
| 効 果 | 入力後のチェックなど各工程に時短と効率アップを体感。令和6年分の業務を無事に乗り切ることができた。 |

季節業務の給報入力[※]が日常業務に上乗せされ、夜遅くまでの残業が長期間発生

——留萌市 総務部 税務課 市民税係 係長の黒田亮さんにお話をうかがいます。留萌市では、給与支払報告書（以下、給報）の読み取りに特化したAI-OCRソフトウェア「DynaEye 給与支払報告書OCR」を導入し、令和6年度から業務に活用されているとうかがっています。何枚の給報を読み取っているのでしょうか。また、抽出したテキストを入力するシステムは何をお使いですか。

黒田さん 令和6年の実績では、給報計1万1850枚のうち紙で提出された5,623枚を読み取りました。入力先は当市で導入している住民税課税支援システム「税務LAN」（株式会社リードコナン）です。

——給報提出のピークはいつ頃でしょう。また、紙給報は何人体制で入力するのでしょうか。

黒田さん 給報提出期限の1月末日前後に最も集中します。たくさん給報が一度に届くため、必死で入力することになります。

給報の入力作業と、誤りがある場合の事業主への連絡は市民税係の正職員5人で手分けして行います。日常業務に季節業務が上乗せされるため、業務時間内で処理することが難しい場合は残業せざるを得ない状況になります。残業は夜9時を過ぎたら切り上げるようにしていますが、日常業務との兼ね合いでもっと遅くまで居残るケースもしばしば発生します。

そこで、紙給報の入力を省力化し、残業による職員の負担を軽減するために導入したのが「DynaEye 給与支払報告書OCR」です。



令和6年度に紙で提出された給与支払報告書（個人別明細書）の一部。サイズは基本的にA5で、100か所以上の項目があります。

大量の給報をまとめて夜間にOCR処理し、システムへの取り込みを円滑化

——「DynaEye 給与支払報告書OCR」はメーカー・商社の株式会社ムサシから紹介を受けて導入されたとうかがっています。最初にこのソフトウェアを知ったとき、どう思われましたか。

黒田さん 紙給報の入力に活用できるデジタル技術を探していたので強く興味を惹かれました。また令和6年度には定額減税関連の内容が給報の摘要欄に記載され、例年以上に負担が大きくなること

が確実視されていたので、急ぎ足で導入を決定しました。

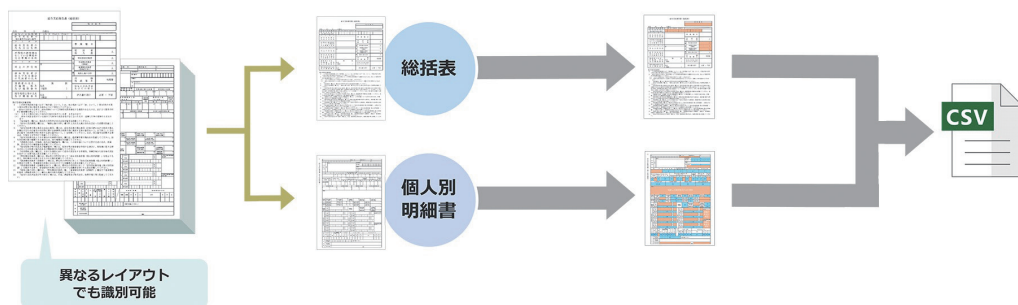
——何が導入の決め手になったのでしょうか。

黒田さん 読み取り精度です。導入前にテストしたところ、きれいな状態ではない手書き文字の読み取り精度が他社のソフトウェアよりやや高かったのが決め手になりました。

「DynaEye 給与支払報告書OCR」は、紙で提出された給与支払報告書のイメージデータからテキストを抽出してCSVファイルで出力する、給与支払報告書に特化したAI-OCRソフトウェアです。総括表と個人別明細書（異なるレイアウトでも可）を自動で識別するため、仕分け不要で一気に処理できます。手書き文字にも対応しており、活字と手書きが混在していても読み取りが可能です。

レイアウトで帳票種類を自動識別

総括表／個人別明細書をOCR



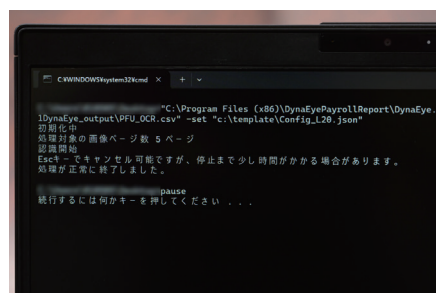
——令和6年分の紙給報をすべて「DynaEye 給与支払報告書OCR」で読み取ったのでしょうか。

黒田さん 令和6年度に関しては定額減税という特殊な要素が存在していたため、入力の自動化を急ぐのではなく、業務の着実かつ正確な完遂を目的に据えました。そのため、基本的に手書きではなく活字で記載された紙給報を読み取ることにし、最終的に紙給報の約50パーセントを「DynaEye 給与支払報告書OCR」で処理しました。認識精度はかなり高く、体感では90パーセントを超えていた

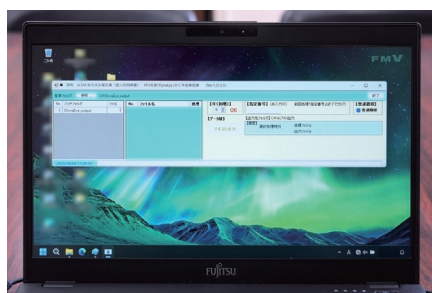
と思います。

——「DynaEye 給与支払報告書OCR」で出力したCSVファイルを「税務LAN」に取り込むにあたり、ムサシの開発による変換プログラムをお使いになったとか。

黒田さん CSVを自動で「税務LAN」に取り込むには、CSVを「税務LAN」の入力フォーマットに合わせて整える必要があります。そのための仕組みをムサシ様に作ってもらいました。



「DynaEye 給与支払報告書OCR」は1帳票あたり平均1.5秒以内で認識します。読み取りの進行状況はコマンドプロンプトの画面に表示されます。



ムサシが開発した変換プログラムの画面より。「税務LAN」に自動で取り込めるよう、CSVの項目数や並び順を整えます。



「税務LAN」(2024年版)の画面より。

——「DynaEye 給与支払報告書OCR」の導入による時短などの効果があればお聞かせください。

黒田さん 効率化の実績を数字でお伝えできればよいのですが、定額減税や人員の異動など例年にない要素が加わったため、以前の比較は難しいというのが正直なところ。とはいえ、手入力からAI-OCRによる読み取りに移行して省力化した分、確実に楽にはなっています。

特に、退勤後の夜間に「DynaEye 給与支払報告書OCR」を稼働させて給報を読み取らせておくことで、時間を有効に使えるように

なりました。

——手入力とOCR処理に正確さの違いはありましたか。

黒田さん 「税務LAN」上でのチェック時の体感としては、最初から手入力した場合に比べてエラーの数が少し減ったように思われます。

——残業時間は減りましたか。

黒田さん 残念ながら減りませんでした。ただ、例年にない要素に時間を取られながらも作業期間を大過なく乗り切れたこと自体、「DynaEye 給与支払報告書OCR」の効果だったともいえます。

税務LANは、日本国内における株式会社リードコナンの登録商標です。

